

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

Dappe



うっちゃれ、
シティライフ。



写真と暮らし

室井翼

©2019 Tsubasa Muroi

写真は暮らしを豊かにすると思う。ファインダーを覗くと、いつもの見慣れた景色が違って見えることがある。陽光を受けて光る草花や、水たまりに反射する空。窓から差し込む夕日。カメラは光と影を捉える。ただ町を歩いているだけで、小さい感動にいくつも出会える。

しばらく撮り続けると、カメラを持っていない時でも目に付く景色の「構図」を考えるようになる。構図の決定とはファインダーの中の色のバランス、縦線と横線のバランス、光と影のバランスなどの「気持ちがいい」ところを見つけていることだと思う。そういうことを気にし始めると景色を見ることが楽しくなる。鋸南町に来て半年以上経つが、変わらずそう思っている。

この町には色が溢れている。山一つにしても杉の濃い緑色、マテバシイの黄緑色、その他たくさん色が混在する。海も町も空も全部。些細なことだが、それに目を向けることでちよっぴり幸せな気持ちになれるのだ。

Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)
〒299-1902
千葉県安房郡鋸南町保田66-1
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼
編集 室井翼



身近な けもの 問題

こんにちは！地域おこし協力隊、有害鳥獣対策担当の黒澤です。「アーバン・アニマル問題」という言葉があります。報道番組などで、「住宅街に野生のサルが出現した」、「店舗や学校敷地などにイノシシが進入した」、「市街地のゴミに誘引されたイノシシを目撃した」、「電車の線路にイノシシやシカが侵入した」、「走行中の乗用車とシカが接触して交通事故が発生した」など、これまで奥山や里の農地などで被害を及ぼしていた野生動物が、都市部・市街地等の住民の生活に影響を及ぼす状況を指しています。

交通事故による車両の損害などは、これまでの農業などの被害金額のように統計上は計算されません。市街地に出没し、人馴れの進んだ野生動物が人間と与える恐怖や衛生面の問題、出荷作物以外の小規模な家庭菜園での被害、生き甲斐として栽培している野菜が被害に遭う精神的なダメージなど経済的な損失として表現しにくい被害規模も拡大しています。

元来、都市部の住民にとっても、農業をしていないからとか、いわゆる自然豊かな地方とは関わりがないからと言って、獣害というのは決して無縁な課題ではありません。

例えば少し想像力を膨らませば、近くのスーパーで手に入る野菜もお金を出せば自由に買えますが、そんな作物を栽培し店頭並べ



神戸市の市街地に出没したイノシシ親子の写真。(撮影 黒澤徹)

るまでの間にも農家さんと野生動物との闘いがあります。環境整備のための草刈りや、防除の為に柵づくり、わななどによる捕獲などが、過疎化と高齢化が課題の中山間地域で多大な労力をもって繰り返されてきています。野生のシカによる生物多様性を損ねる山林の荒廃、下層植生の食害による土壌流出災害、野生動物が媒介するダニやヒルなどによる衛生被害や観光被害、獣害による就農意欲の減退からの農業従事者の減少などもそうです。意味合いは少々異なりますが最近では、野生のイノシシによる豚コレラの感染拡大なども野生動物が人の生活に及ぼす影響の一つと言えます。獣害はもはや全国民に影響を及ぼす身近な「災害」の一つと言えます。

さらに、ポールを前後させることで、上半身と下半身がねじれあい、体脂肪燃焼とコアマッスルが強化され、しなやかな身体づくりができるのです。

ウォーキングで健康な身体づくり。激太りが解消できるかどうかは別として、また機会があれば参加してみたいと思います。

ポールウォーキングをする際のポイントは次のとおり。

- 1 大まかでゆっくりと歩く
- 2 のどが渇く前に水を飲む
- 3 無理しない
- 4 準備体操をする

鋸南町の場合も、住宅が集まる地域に点在する空き地に繁茂するヤブが、野生動物の隠れ場所や繁殖場所、山からの接近経路になっていることもあります。住宅が集まる地域に一度出没した野生動物は実は捕獲が大変困難です。奥山のように鉄砲も撃てませんし、わなの設置も危険を伴うこともあります。こうした対策の困難さもさることながら、通学路に出没などとなれば子供に及ぼす危険なども計り知れないわけです。

野生動物による様々な被害について対策や対処についてわからないことがあればお気軽にお問合せいただけます。生活環境や周囲の状況にあった対策のアドバイスや、捕獲従事者への仲介などさせていただきます。

鋸南町地域おこし協力隊 有害鳥獣担当 黒澤 徹
電話:090-1603-6638 E-Mail:toru.kurosawa@gmail.com



激太りは
解消できるのか!?

ポールウォーキングに 参加してみました!!



地域おこし協力隊の清水多佳子です。5月31日、鋸南町誕生60周年を祝うウォーキングイベント「KYONAN 60健幸ウォーク」が開かれたので、参加しました。なぜ参加したのかというと、お恥ずかしい話ですが、昨年9月に東京から移住し、かなり太ってしまったからです。激太りを解消すべく、歩くイベントに参加したのですが、その効果はいかに...!?



なぜ、東京から移住して太ったのかというと、それは歩く時間が減ってしまったから。地方は車社会。車に乗らないと買い物にも仕事にも行くこともできない状況で、どうしても歩く機会が減ってしまったわけです。

町内外から約140人が参加した、今回のウォーキングイベント。道の駅「保田小学校」に行くと、すでにたくさんの方がポールを持って、歩く準備をしていました。

一般社団法人日本ポールウォーキング協会の杉浦伸郎コーチのもと、準備体操をして出発。鋸南町の水仙ロードを2本のポールを使いながら歩きました。

正直私、ウォーキングが苦手なものです。なぜって、ただ歩くだけって飽きてしまうから。しかし、そんな私も、周りの人と話をしながらのウォーキングだったので、退屈することがありませんでした。

30分ほど歩いたところで、少し疲れてきたので、江月コミュニティセンターで休憩。初心者にとっては、これくらいの運動量がちょうどよいと感じました。

ポールって、高齢者が持つ「杖のようなもの」というイメージだったんですが実はそうじゃないんです。ポールを持つことで上半身も動かすことができ、全身の90パーセント近くの体幹筋群を使うことができます。

